

大ヨークシャー種系統豚「フクオカヨーク」の造成							
<p>〔要約〕 優良な大ヨークシャー種を基礎豚として、1985年から閉鎖群育種法で造成を行い、発育が良く、背脂肪の厚さが適度でロース芯が大きく、繁殖能力・体型に優れた雌系の系統豚「フクオカヨーク」が完成した。</p>							
畜産研究所・中小家畜部・養豚研究室					連絡先	092-922-4100	
部会名	畜産	専門	育種	対象	家畜類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

本県の養豚は標準化された品種組合せによる雑種強勢利用が定着している。しかし、同一品種内でも個体により遺伝的に大きな差があるため、生産される肉豚の産肉性や肉質等にバラツキが大きく、生産、流通及び加工の各段階で問題となっている。

そこで、計画的な品種間系統交雑により、斉一で経済価値の高い肉豚を安定的に生産するため、遺伝的斉一性に優れ、かつ能力の高い大ヨークシャー種雌系の「系統」を造成する。

〔成果の内容・特徴〕

①産肉能力

最終世代での1日増体量は、雄 826g、雌 749gと良好な成績を示した。背脂肪の厚さは雄 1.6cm、雌 2.6cmと適度な厚さに改良された。また、ロース断面積は雄20.7cm<sup>2</sup>、雌20.6cm<sup>2</sup>と大きくなった（表1）。

②繁殖能力

最終世代生産時の母豚の繁殖成績は、初産でしかも1発情1回種付けであるにもかかわらず、平均産子数は9.5頭、育成率は91.5%、哺乳豚の発育も良好で、大ヨークシャー種の母系としての繁殖能力の特性が十分発揮された（表2）。

③体型等

体幅と深みに富み、後駆が充実し、肢蹄が丈夫である。また、個体間のバラツキが少なく、最終世代の血縁係数及び近交係数は22.0%及び8.1%となった（データ略）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①「フクオカヨーク」は、本県の銘柄豚生産の一代雑種基礎豚として活用する。
- ②「フクオカヨーク」飼養管理マニュアルを参考にして飼育する。

[具体的データ]

表1 産肉成績 (昭和60~平成4年)

形質	性	第1世代	改良 目標値	最終世代 (第7世代)	参 考	
					大分	宮崎
1日増体量 (g)	雄	755 ± 105	800	826 ± 49	734	805
	雌	581 ± 82	620	749 ± 68	688	735
背脂肪の厚さ (cm)	雄	1.59 ± 0.20	1.4	1.60 ± 0.22	1.6	1.6
	雌	2.75 ± 0.32	2.6	2.61 ± 0.21	-	2.9
ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )	雄	19.9 ± 2.6	21	20.7 ± 2.3	20.9	19.5
	雌	20.2 ± 2.5	22	20.6 ± 2.0	-	19.6

- 注) ① 1日増体量: 雄は体重30kg~90kg、雌は生後90日~180日。  
 ② 背脂肪の厚さ: 雄は体長1/2部位、雌は調査豚 3部位平均。  
 ③ ロース断面積: 調査豚の5-6胸椎間。  
 ④ 参考: 大分はブンゴヨーク、宮崎はハマユウW1とW2の平均。

表2 繁殖成績 (昭和60~平成4年)

世 代	受胎 率	分娩 雌豚	1 腹 平 均			育 成 率	子豚平均体重		
			産子	哺乳	離乳		生時	3週	5週
第1世代生産時	87.5%	53頭	8.9頭	8.2頭	6.9頭	81.8%	1.2kg	4.8kg	7.6kg
最終世代生産時	92.2	38	9.5	8.9	8.1	91.5	1.2	5.3	8.7

[その他]

研究課題名: 大ヨークシャー種の系統造成

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (昭和60~平成4年)

研究担当者: 投野和彦、佐藤充徳、大和碩哉

発表論文等: 新大ヨークシャー種系統豚の作出、第10回福岡県農業総合試験場成果発表  
会講演要旨、1992。